

弘前市総合計画 後期実施計画

2023（令和5）年3月策定
2024（令和6）年3月改訂
2025（令和7）年3月改訂
2026（令和8）年3月改訂

事務事業名		⑥道路照明施設管理事業		歳出科目	8 款 土木費	所管部課名	建設部道路維持課
現状と課題	令和6年度をもって道路照明施設包括管理業務が完了し、全灯具2,466灯のうちLED化が困難な灯具を除いた2,378灯のLED化改修及び、令和元年度の調査により老朽化のため更新が必要と判断した道路照明施設が完了しました。			事業の概要	①事業の目的・内容 ＜目的＞ 道路照明施設の点灯状況及び劣化損傷状態等の点検、不点灯時の早急な対応を行い、交通の安全確保を図ります。 ＜内容＞ ・市内全灯具2,466灯の点灯状況及び灯具の劣化損傷状態の点検を行います。 ・市内の通報又は点検時に不点灯及び不具合が確認された際の修繕を行います。		②期待できる効果 施設の適切な維持管理により、夜間における交通の安全確保及びサービス向上が図られます。
活動内容	2023(R5)年度		2024(R6)年度		2025(R7)年度		2026(R8)年度
	包括管理業務委託 60,000千円 光熱水費 26,000千円		包括管理業務委託 60,000千円 光熱水費 24,736千円		道路照明施設管理業務 10,000千円 光熱水費 19,000千円		道路照明施設管理業務 7,000千円 光熱水費 19,000千円
	事業費： 86,000 千円		事業費： 84,736 千円		事業費： 29,000 千円		事業費： 26,000 千円

事務事業名		⑦道路環境サポーター制度		歳出科目	8 款 土木費	所管部課名	建設部道路維持課		
現状と課題	市内の街路樹は、近年、枯死等に伴う伐採による空き樹が目立ち、植樹樹内に雑草が生い茂り、今後、道路景観の悪化に繋がると予測されます。 このような状況の中で、道路の環境美化活動を自発的に行っている住民団体や企業等も存在することから、その団体が継続して活動を行えるよう支援が必要です。			事業の概要	①事業の目的・内容 《目的》 市が管理する道路の環境美化活動を自発的に行う住民団体や企業等を「道路環境サポーター」として認定し、住民と行政の協働による快適な道路環境と景観づくりを進めるとともに、ボランティア意識の向上を図ります。 《内容》 「道路環境サポーター」として認定した町会等の住民団体に、活動に必要な花苗や維持管理に必要な資材を支給します。		②期待できる効果 道路環境サポーターの活動により、快適な道路環境と景観の形成やボランティア意識の向上に繋がります。		
活動内容	2023(R5)年度		2024(R6)年度		2025(R7)年度		2026(R8)年度		
	○管理用資材 ・軍手、ごみ袋、鍬、鎌など ○原材料 ・苗(シバザクラ、ラベンダー) ・肥料 ・土壌改良材 ・その他		○管理用資材 ・軍手、ごみ袋、鍬、鎌など ○植栽用資材 ・花苗(シバザクラ、ラベンダー等) ・肥料 ・土壌改良材 ・その他		○管理用資材 ・軍手、ごみ袋、鍬、鎌など ○植栽用資材 ・花苗(シバザクラ、ラベンダー等) ・肥料 ・土壌改良材 ・その他		○管理用資材 ・軍手、ごみ袋、鍬、鎌など ○植栽用資材 ・花苗(シバザクラ等) ・肥料 ・土壌改良材 ・その他		
事業費：		350 千円	事業費：		350 千円	事業費：	410 千円	事業費：	398 千円

3 安全・安心な上下水道の構築

1) 安全で安定した水道水の供給

事務事業名		①老朽管更新事業		水道事業会計		所管部課名		上下水道部工務課	
現状と課題	事業創設時に布設された鑄鉄管等の老朽化が著しく、濁水発生や管路破損による漏水事故などの原因となっていることから、安全で安定した水道水を供給するため、老朽管の布設替え(更新)が必要となっています。			事業の概要	①事業の目的・内容 ＜目的＞ 布設後40年以上経過した基幹管路を耐震管へ布設替えし、水道水の安定供給や漏水防止を図ります。 ＜内容＞ ○老朽管更新 ・送配水管布設替 φ100～600 L=7,949m ・給水管切替 N=155箇所 ・消火栓設置 N=13基 ・工事詳細設計 1式			②期待できる効果 新たに耐震管へ布設替えることで、地震等の災害に強い水道施設が構築され、水道水の安定供給や漏水による不用品水の削減を図ることができます。	
活動内容	2023(R5)年度 ・配水管布設替 φ100～500 L=3,477m ・給水管切替 N=93箇所 ・消火栓設置 N=7基 ・工事詳細設計 1式			2024(R6)年度 ・送配水管布設替 φ400～600 L=1,742m		2025(R7)年度 ・送配水管布設替 φ150～500 L=1,930m ・給水管切替 N=53箇所 ・消火栓設置 N=6基 ・工事詳細設計 1式		2026(R8)年度 ・送配水管布設替 φ400～500 L=800m ・給水管切替 N=9箇所	
	事業費： 943,605 千円			事業費： 509,694 千円		事業費： 584,574 千円		事業費： 248,283 千円	

事務事業名	②主要管路耐震化事業	水道事業会計	所管部課名	上下水道部工務課
現状と課題	基幹病院や避難所等は、地震等の災害時における拠点施設となり、ライフラインの確保が非常に重要であることから、安全で安定した水道水を供給するために、拠点施設までの配水管を布設替えし、耐震化する必要があります。	①事業の目的・内容 ＜目的＞ 災害時における重要な拠点となる基幹病院、避難所等への配水管を計画的に耐震管へ布設替えし、水道水の安定供給を図ります。 ＜内容＞ ○主要管路耐震化 ・配水管布設替 φ75～250 L=1,659m ・給水管切替 N=143箇所 ・消火栓設置 N=7基 ・工事詳細設計 1式	②期待できる効果	新たに耐震管へ布設替えすることで、地震等の災害に強い水道施設が構築され、拠点施設へのライフラインの確保による水道水の安定供給を図ることができます。
活動内容	2023(R5)年度 ・配水管布設替 φ75～200 L=305m ・給水管切替 N=47箇所 ・消火栓設置 N=4基	2024(R6)年度 ・配水管布設替 φ75～100 L=504m ・給水管切替 N=37箇所 ・消火栓設置 N=2基	2025(R7)年度 ・配水管布設替 φ75～150 L=380m ・給水管切替 N=20箇所 ・消火栓設置 N=1基	2026(R8)年度 ・配水管布設替 φ150～250 L=470m ・給水管切替 N=39箇所 ・工事詳細設計 1式
	事業費： 121,963 千円	事業費： 82,125 千円	事業費： 80,428 千円	事業費： 217,407 千円

事務事業名	③樋の口浄水場等建設事業	水道事業会計	所管部課名	上下水道部工務課
現状と課題	稼働から約50年が経過している樋の口浄水場及び常盤坂増圧ポンプ場並びに岩木川取水ポンプ場は、老朽化による経年劣化が著しく、耐震性も不足しているため、災害時には日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす恐れがあることから、施設の更新が急務となっています。	①事業の目的・内容 ＜目的＞ 官民連携により、樋の口浄水場及び常盤坂増圧ポンプ場並びに岩木川取水ポンプ場を更新するとともに、施設規模を将来の水需要を考慮しダウンサイジングします。 ＜内容＞ ○樋の口浄水場等建設事業(DBO方式) ・工事 1式 ・運転管理 1式 ○モニタリング支援業務 ・工事監理支援 1式	②期待できる効果	施設の更新により耐震化が図られ、地震等の災害時においても、基幹施設として水道水の安定供給が可能となることから、市民生活の安全・安心が確保されます。
活動内容	2023(R5)年度 ○樋の口浄水場等建設事業 ・工事 1式 ○モニタリング支援業務 ・工事監理支援 1式	2024(R6)年度 ○樋の口浄水場等建設事業 ・工事 1式 ○モニタリング支援業務 ・工事監理支援 1式	2025(R7)年度 ○樋の口浄水場等建設事業 ・工事 1式 ○モニタリング支援業務 ・工事監理支援 1式	2026(R8)年度 ○樋の口浄水場等建設事業 ・工事 1式 ・運転管理 1式 ○モニタリング支援業務 ・工事監理支援 1式
	事業費： 2,141,713 千円	事業費： 4,815,444 千円	事業費： 4,262,056 千円	事業費： 1,386,385 千円

事務事業名	④水道施設老朽化対策事業	水道事業会計	所管部課名	上下水道部水道施設課
現状と課題	市内各所には、樋の口浄水場のほかに浄水施設や増圧ポンプ場などの水道施設が点在し、その多くが耐用年数を超えている状況となっていることから、計画的な更新が必要となっています。	①事業の目的・内容 ＜目的＞ 点在する老朽化した水道施設(小規模増圧ポンプ場)の更新を行い、災害に強い水道施設を構築します。 ＜内容＞ 事業期間:2019(R元)年度～2030(R12)年度 総事業費:905,460千円 事業内容: ・小規模増圧ポンプ場更新基本設計 1式 ・原ヶ平配水ポンプ場等詳細設計 1式 ・小沢第1増圧ポンプ場ほか4施設の統合	②期待できる効果	施設の更新により耐震化が図られ、地震等の災害時においても、基幹施設として水道水の安定供給が可能となることから、市民生活の安全・安心が確保されます。
活動内容	2023(R5)年度 ○原ヶ平配水ポンプ場 ・建築工事 1式 ・電気機械設備工事 1式	2024(R6)年度 ○原ヶ平配水ポンプ場 ・建築工事 1式 ・電気機械設備工事 1式	2025(R7)年度 ○原ヶ平配水ポンプ場 ・配水管布設工事 φ200～250 L=820m	2026(R8)年度 ○原ヶ平配水ポンプ場 ・配水管布設工事 φ200～250 L=1,660m
	事業費： 45,962 千円	事業費： 267,043 千円	事業費： 120,000 千円	事業費： 239,000 千円

事務事業名 ⑤上下水道PR事業		下水道事業会計、下水道事業会計		所管部課名	上下水道部総務課
現状と課題	人口減少等により料金収入が減少している中で、施設の耐震化や老朽化した施設の改築・更新需要が増大するため、施設の統廃合やライフサイクルコストの最小化を図り、長寿命化対策を含めた計画的な改築・更新をしながら、必要な資金を確保する必要があります。 また、料金や快適さなど市民生活に直接関わることから、上下水道事業に対する市民の理解度向上が必要となっています。	事業の概要	①事業の目的・内容		②期待できる効果
			<目的> 上下水道事業のPR活動を行い、重要性や必要性の理解度向上を図るほか、市民のニーズの把握に取り組みます。 <内容> ・イベント開催によるPR活動 ・施設見学会 ・アンケート等実施		水道水が作られる過程や汚水が処理される過程が理解されることにより、上下水道事業に対する関心が高まります。 また、上下水道事業の重要性や必要性に対する市民の理解度が向上します。
活動内容	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度	
	・水道週間の開催 ・カルチャードへの出展 ・施設見学会	・水道週間の開催 ・カルチャードへの出展 ・施設見学会	・水道週間の開催 ・カルチャードへの出展 ・施設見学会	・水道週間の開催 ・カルチャードへの出展 ・施設見学会	
事業費： 498 千円		事業費： 403 千円	事業費： 385 千円	事業費： 385 千円	

2) 下水道の整備による快適な生活環境の確保

事務事業名 ①公共下水道建設事業		下水道事業会計		所管部課名	上下水道部工務課
現状と課題	人口減少等に伴う使用料収入の低下や、施設の老朽化に伴う更新需要の増大などにより、下水道事業を取り巻く環境は、年々厳しくなっています。 衛生的で快適な生活環境を確保するため、持続可能な下水道事業の実現が課題となっています。	事業の概要	①事業の目的・内容		②期待できる効果
			<目的> 下水道未整備地区の整備を実施し、快適な生活環境の確保と公共用水域の水質保全を図ります。また、維持管理の効率化を図るため、下水道施設の統廃合に係る検討に取り組みます。 <内容> ○未整備地区 ・管路工事 L=301m ・公共ます設置 N=1箇所 ○相馬処理区(統合) ・管路工事 L=927m ・水管橋 N=2箇所 ・マンホールポンプ場 N=1箇所 ・維持管理用地整備 1式 ・移転補償 1式 ○官民連携 ・導入可能性調査 1式		公共下水道の整備により、衛生的で快適な生活環境が確保されるとともに、下水道施設の統廃合により、汚水処理に係る費用の低減や、作業人員の削減が図られます。
活動内容	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度	
	○未整備地区 ・管路工事 L=228m ○相馬処理区(統合) ・管路工事 L=343m	○未整備地区 ・管路工事 L=73m ○相馬処理区(統合) ・管路工事 L=131m ・マンホールポンプ場 N=1箇所 ○官民連携 ・導入可能性調査 1式	○未整備地区 ・公共ます設置 N=1箇所 ○相馬処理区(統合) ・管路工事 L=382m	○相馬処理区(統合) ・管路工事 L=71m ・水管橋 N=2箇所 ・維持管理用地整備 1式 ・移転補償 1式	
事業費： 94,924 千円		事業費： 88,455 千円	事業費： 84,856 千円	事業費： 122,700 千円	

事務事業名 ②管渠改築事業		下水道事業会計		所管部課名	上下水道部工務課
現状と課題	経年劣化により機能が著しく低下している下水道管は、不明水の浸入や破損、及びこれに起因する舗装補修等が顕著化している状況となっています。 今後、増大する老朽化施設への効率的かつ効果的な対策を行い、下水道事業を将来にわたり継続させることが課題となっています。	事業の概要	①事業の目的・内容		②期待できる効果
			<目的> 適切な老朽化対策を実施し、下水道管の持続的な機能確保を図ります。 <内容> ○南横町地区(駅前地区) ・人孔更生 N=35箇所 ・人孔蓋更新 N=37箇所 ○鍛冶町地区(中部・東部処理区) ・管渠更生 L=2,677m ・人孔更生 N=2箇所 ・管口耐震化 N=18箇所 ・人孔蓋更新 N=37箇所 ○中部第1号幹線外 ・内部調査業務 1式 ・耐震診断 1式 ○官民連携 ・発注支援業務 1式		老朽化対策を計画的に実施することにより、下水道管の能力が確保されるほか、延命化と耐震化が図られ、事業を効率的かつ効果的に進めることができます。
活動内容	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度	
	○南横町地区(駅前地区) ・人孔蓋更新 N=37箇所 ○鍛冶町地区(中部・東部処理区) ・管渠更生 L=184m	○鍛冶町地区(中部・東部処理区) ・管渠更生 L=686m	○南横町地区(駅前地区) ・人孔更生 N=20箇所 ○鍛冶町地区(中部・東部処理区) ・管渠更生 L=1,260m	○南横町地区(駅前地区) ・人孔更生 N=15箇所 ○鍛冶町地区(中部・東部処理区) ・管渠更生 L=547m ・人孔更生 N=2箇所 ・管口耐震化 N=18箇所 ・人孔蓋更新 N=37箇所 ○中部第1号幹線外 ・内部調査業務 1式 ・耐震診断 1式 ○官民連携 ・発注支援業務 1式	
事業費： 83,171 千円		事業費： 240,900 千円	事業費： 466,053 千円	事業費： 429,060 千円	

事務事業名		③公共下水道処理施設等改築事業		下水道事業会計		所管部課名		上下水道部下水道施設課		
現状と課題	弘前市下水処理場は、県の岩木川浄化センターとの施設統合後、一部合流区域の雨水処理施設として稼働していますが、設備については耐用年数を超え老朽化が著しい状況となっています。 また、施設の耐震性能不足や壁・屋根等の経年劣化についても著しい状況となっています。 今後、人口減少や節水意識の高まりなどに伴う料金収入の減少や、震災などの影響による労務費や資機材などが高騰しており、耐用年数を超えた施設の改築需要の増大に対する対応が課題となっています。			事業の概要	①事業の目的・内容			②期待できる効果		
					<目的> 耐用年数を超えて老朽化が著しい電気・機械設備等について、計画的に改築を実施し、施設能力の確保を図ります。 また、災害にも強い下水道施設を構築するため、施設の耐震診断及び浸水調査を実施することにより、最適な補強工事を選定し、耐震化と浸水対策を図ります。 <内容> 事業期間：2019(R元)年度～2030(R12)年度 総事業費：1,816,245千円 事業内容： ○弘前市下水処理場（流入施設） ・電気・機械設備改築工事 1式 ・耐震補強・耐水化工事 1式 ・監視制御設備改築工事 1式			電気・機械設備の改築や最適な補強工事と浸水対策を実施することにより、適正な施設能力が確保されるとともに、安定かつ効率的な運転管理や耐震化と浸水対策が図られ、市民が快適に暮らすことができます。		
活動内容	2023(R5)年度		2024(R6)年度		2025(R7)年度		2026(R8)年度			
	○弘前市下水処理場（流入施設） ・沈砂池電気・機械設備改築工事 1式		○弘前市下水処理場（流入施設） ・耐震・耐水化工事 1式 ・耐震・耐水化工事監理業務 1式 ・電気・機械設備工事 1式		○弘前市下水処理場（流入施設） ・耐震・耐水化工事 1式 ・耐震・耐水化工事監理業務 1式		○弘前市下水処理場（流入施設） ・工事準備特別調査業務 1式 ・電気・機械設備改築工事 1式 ・ポンプ電気設備改築工事 1式 ・ポンプ機械設備改築工事 1式			
事業費：		520,630 千円	事業費：		31,200 千円	事業費：		317,499 千円	事業費：	50,133 千円

事務事業名		④マンホールポンプ場改築事業		下水道事業会計		所管部課名		上下水道部下水道施設課							
現状と課題	市内各所に設置されているマンホールポンプ場は、1987(S62)年から整備が始まり、2024(R6)年度末で446箇所に設置されています。 耐用年数を超えた設備が多くなっており、老朽化による機能低下や不具合に加え、突発的な故障が生じています。 施設の保有箇所数が多いことから、施設の重要度を考慮した事業費の平準化が課題となっています。			事業の概要	①事業の目的・内容			②期待できる効果							
					＜目的＞ 耐用年数を超えて機能低下が著しいマンホールポンプ場について、計画的に改築を実施し、施設能力の確保を図ります。 ＜内容＞ 事業期間：2023(R5)年度～2026(R8)年度 総事業費：251,137千円 事業内容： ○公共下水道 ・マンホールポンプ場改築 1式 ○農業集落排水施設 ・マンホールポンプ場改築 1式			マンホールポンプ設備の改築を計画的に実施することにより、適正な施設能力が確保されるとともに、安定かつ効率的な運転管理が図られ、市民が快適に暮らすことができます。							
活動内容	2023(R5)年度			2024(R6)年度		2025(R7)年度		2026(R8)年度							
	○公共下水道 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式 ○農業集落排水施設 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式			○公共下水道 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式 ○農業集落排水施設 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式		○公共下水道 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式 ○農業集落排水施設 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式		○公共下水道 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式 ○農業集落排水施設 ・マンホールポンプ設備更新工事 1式							
事業費：		52,521 千円		事業費：		70,095 千円		事業費：		45,198 千円		事業費：		83,323 千円	

事務事業名		⑤農業集落排水処理施設等改築事業	下水道事業会計	所管部課名	上下水道部下水道施設課
現状と課題	農業集落排水事業及び小規模集合排水処理施設整備事業で整備された汚水処理施設については、設備が耐用年数を超えたものが多く、老朽化による不具合が生じ、機能低下が著しい状況となっています。 今後、人口減少や節水意識の高まりなどに伴う料金収入の減少や、震災などの影響による労務費や資機材などが高騰しており、耐用年数を超えた施設の改築需要の増大に対する対応が課題となっています。		事業の概要 ①事業の目的・内容 ＜目的＞ 耐用年数を超えて老朽化が著しい電気・機械設備について、計画的に改築を実施し、施設能力の確保を図ります。 ＜内容＞ 事業期間：2023(R5)年度～2026(R8)年度 総事業費：161,486千円 事業内容： ○農業集落排水処理施設（小規模集合排水処理施設を含む） ・電気・機械設備改築 1式 ・電気・機械設備詳細診断調査 1式	②期待できる効果 電気・機械設備の改築を実施することにより、適正な施設能力が確保されるとともに、安定かつ効率的な運転管理が図られ、市民が快適に暮らすことができます。	
活動内容	2023(R5)年度		2024(R6)年度	2025(R7)年度	
	○農業集落排水処理施設 ・電気・機械設備更新工事 1式 ・弘前市総合2期維持管理適正化計画策定業務（東目屋、紙漕沢、一丁木） 1式		○農業集落排水処理施設 ・電気・機械設備更新工事 1式 ・弘前市総合1期事業調査業務（高杉、船沢・弥生、新和鬼楢、裾野新和北） 1式 ・東目屋地区事業調査計画策定業務 1式 ・弘前市総合3期維持管理適正化計画策定業務（八幡） 1式	○農業集落排水処理施設 ・弘前市総合1期事業計画策定業務（高杉、船沢・弥生、新和鬼楢、裾野新和北） 1式 ・東目屋地区機能強化対策工事（電気設備） 1式 ・一丁木地区事業調査診断業務 1式	
	事業費：28,791千円		事業費：13,455千円	事業費：81,700千円	
				事業費：37,540千円	

事務事業名 ⑥上下水道PR事業(再掲)		水道事業会計、下水道事業会計		所管部課名	上下水道部総務課
現 状 と 課 題	人口減少等により料金収入が減少している中で、施設の耐震化や老朽化した施設の改築・更新需要が増大するため、施設の統廃合やライフサイクルコストの最小化を図り、長寿命化対策を含めた計画的な改築・更新をしながら、必要な資金を確保する必要があります。 また、料金や快適さなど市民生活に直接関わることから、上下水道事業に対する市民の理解度向上が必要となっています。		①事業の目的・内容		②期待できる効果
			<目的> 上下水道事業のPR活動を行い、重要性や必要性の理解度向上を図るほか、市民のニーズの把握に取り組みます。 <内容> ・イベント開催によるPR活動 ・施設見学会 ・アンケート等実施		水道水が作られる過程や汚水が処理される過程が理解されることにより、上下水道事業に対する関心が高まります。 また、上下水道事業の重要性や必要性に対する市民の理解度が向上します。
活 動 内 容	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度	
	・水道週間の開催 ・カルチャアロードへの出展 ・施設見学会	・水道週間の開催 ・カルチャアロードへの出展 ・施設見学会	・水道週間の開催 ・カルチャアロードへの出展 ・施設見学会	・水道週間の開催 ・カルチャアロードへの出展 ・施設見学会	
	事業費： 498 千円	事業費： 403 千円	事業費： 385 千円	事業費： 385 千円	